

感謝状を贈呈しました

趣味で作っているストラップです。以前、学校で相談員をしていたこともあり、何かお役に立てていただければと、寄付させていただきました。聞けば、募金活動にご協力いただいた方にお渡ししているとか。陰ながら、応援できれば、嬉しいです。



尾池さん、素敵なストラップをいつもありがとうございます。



電話相談

052-232-7830

月曜日～金曜日/10:00～16:00
祝日、年末年始(12/29～1/3)を除く

時間外はこちら：全国共通ナビダイヤル

0570-783-554

7:30～22:00 年末年始(12/29～1/3)を除く
※被害者支援センターの開設時間内はお住いのエリアの被害者支援センターにつながります。

あいポート賛助会員入会・寄付

あいポート賛助会員ご入会

- 個人(一口)10,000円/年
- 法人(一口)50,000円/年

寄付はいくらからでも

事務局(052-232-7834)
もしくは下記ホームページでお申し出ください。

クレジットカード決済によるご寄付・会費は

CANPAN決済サービス

<https://kessai.canpan.info/org/aichi7830/>

(CANPAN利用者登録が必要です(登録無料))



カウンセリングルームをリニューアルしました

日本財団預保納付金助成事業の助成金で、センターのカウンセリングルームを明るく、モダンにリニューアルいたしました。以前の無機質だった部屋を、被害者の方に少しでも話しやすくしていただけるよう、家具の位置を低くし、本や観葉植物、絵画などを置いて、落ち着いた雰囲気のある部屋にしました。



Facebook

Facebook(フェイスブック)では、あいポートの活動やお知らせを随時更新しています。あいポートのFacebookページをご覧ください、ぜひ「いいね!」をお願いします。



Twitter

Twitter(ツイッター)始めました。@aiport7830
主に、あいポートの活動に賛同し、支援をしてくださる方々をご紹介します。相談は、受け付けておりません。



あいポートNews

No.32

令和2年7月発行 (公社)被害者サポートセンターあいち

ごあいさつ



被害者サポートセンターあいち
事務局長 白柳 大仁

事務局長となりました白柳大仁です。よろしくお願いします。「被害者支援に慣れは禁物」。着任時にベテラン支援員から教わりました。どういう意味だろうか。電話相談内容を見聞きするうちに「なぜそんなに自分自身を責めるのか?」「何を求めているのか?」「なぜ被害届を出さないのか?」と素朴な疑問を感じるとともに、自分のこれまでの経験から「これが答えだ」と決めつける自分を感じました。ベテラン支援員いわく、「被害者の気持ちは千差万別、答えは一つではない。支援範囲も人それぞれ」とのこと。

自助グループの方からお話を聞きました。「支援してもらいたい」という人もいれば「そっとしておいてもらいたい」という人もいるとのこと。ただ、犯罪被害を忘れ去らないで欲しいという気持ちは共通しています。どんなに時間が経とうとも、受けた心の傷は癒えないかもしれません。それでも、何か力になりたい。「慣れは禁物」＝「初めてという姿勢」で、相談者それぞれに合ったサポートができればと考えています。

愛知県警察本部住民サービス課長の佐々木でございます。公益社団法人被害者サポートセンターあいち定時社員総会の開催にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

被害者サポートセンターあいちの役員及び会員の皆様方には、日頃から、県警における犯罪被害者支援をはじめとする警察業務全般にわたり、深い御理解と御協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今年度は第3次犯罪被害者等基本計画の最終年度に当たり、警察では、犯罪被害者等の援助を行う民間団体の活動への支援等、各種犯罪被害者等施策を推進しているところであります。愛知県警では、犯罪発生直後から被害者やその御家族と接し、犯罪被害者等のニーズに応えた直接的支援のほか、心理職員によるカウンセリングの実施等の精神的支援、各種公費負担制度や犯罪被害給付制度の運用による経済的支援など、幅広く各種支援制度を構築するとともに、県民に被害者支援の重要性等を広く知ってもらうための広報啓発活動を行っておりますが、警察だけでは対応しきれない中長期的な支援につきましては皆様方のような民間の方々との連携、協力が必要不可欠であると考えております。皆様方には、警察との連携をするうえで、数々の御苦勞をお掛けしていることと思いますが、我々にとって被害者サポートセンターあいちは最も重要なパートナーと考えており、できる限りのバックアップをさせていただきますので、引き続き緊密な連携と御協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年度の主な連携に目を向けますと、被害者サポートセンターあいちの活動資金の安定化を図るため、相談業務、直接的支援業務、「命の大切さを学ぶ教室」の開催について、これまでの謝金制度を改め、業務委託に切り替えました。昨年も警察から被害者サポートセンターあいちへ、犯罪被害に遭われた方やその御家族の同意を得られた方々の情報提供をさせていただき、支援をお願いしましたが、付添い支援などの直接支援、臨床心理士の先生によるカウンセリング、電話による相談等、支援員の方々には様々な場面で、中長期にわたる支援をきめ細やかに行っていただきました。また、多くの学生たちにとって、生命の大切さや被害者等の思いを改めて考える機会となる「命の大切さを学ぶ教室」の開催につきましては、事務局の皆様が各警察署や講師の先生、学校との連絡調整を図っていただき、愛知県内の中学校・高校で前年度の開催回数を大きく上回る計39回の教室を開催するなど、社会全体で被害者を支え、被害者も加害者も出さないまちづくりに向けた気運醸成活動にも力を入れていただきました。サポートセンターの被害者支援は、いずれも、私ども行政機関や民間営利団体では満たすことのできない被害者の方々や社会のニーズに対応する、多様なサービスを柔軟に提供することができ、その果たすべき役割はますます重要になっています。

今年は、新型コロナウイルスが猛威を振るっており、緊急事態宣言が解除されたとはいえ、いまだに予断を許さない状況下にあります。引き続き感染防止には十分配慮していただくとともに、被害者サポートセンターあいちの益々の御発展と皆様の御健勝、御多幸を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。



愛知県警 住民サービス課長
佐々木 好三



「あいポートNews」発行所 公益社団法人 被害者サポートセンターあいち
〒460-0002 名古屋市中区丸の内二丁目14番21号 TEL: 052-232-7834 FAX: 052-232-7835

<https://www.higai7830.or.jp/>



Find us on
Facebook

<https://www.facebook.com/aichi7830>

総会・理事会の開催

令和2年3月9日臨時総会において、令和2年度事業計画と収支予算が承認されました。また、6月22日の定時社員総会において、令和元年度の事業報告と、決算報告が承認されました。定時社員総会は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、WEBでの出席も取り入れて開催しました。



定時社員総会WEBでの参加



定時社員総会

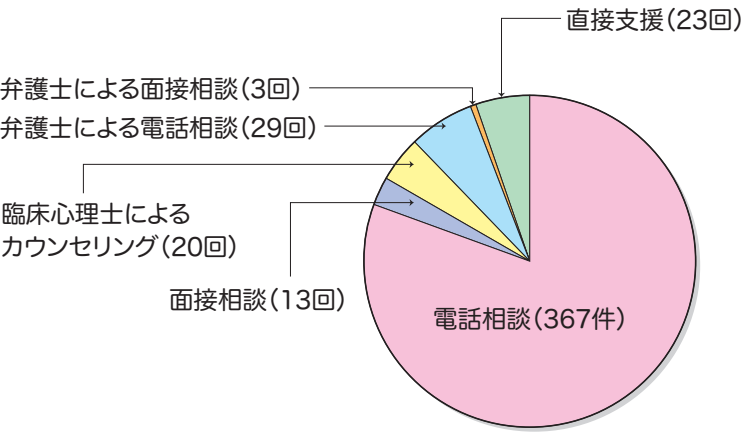
令和2年度 予算		
科 目		予算額
収入の部	事業活動収入	25,078,000
	会費	9,980,000
	助成金等	13,458,000
	寄付金	1,638,000
	雑収入	2,000
支出の部	事業活動支出	25,993,000
	相談支援事業費	7,783,000
	支援員養成事業費	4,900,000
	調査研究事業費	3,020,000
	広報啓発事業費	4,328,000
	管理費	5,962,000

令和元年度 決算		
科 目		決算額
収入の部	事業活動収入	29,833,267
	会費	9,870,000
	助成金等	15,116,853
	寄付金	4,844,716
	雑収入	1,698
支出の部	事業活動支出	25,365,781
	相談支援事業費	6,764,550
	支援員養成事業費	5,546,090
	調査研究事業費	2,721,959
	広報啓発事業費	4,307,627
	管理費	6,025,555
当期収支差額		4,467,486

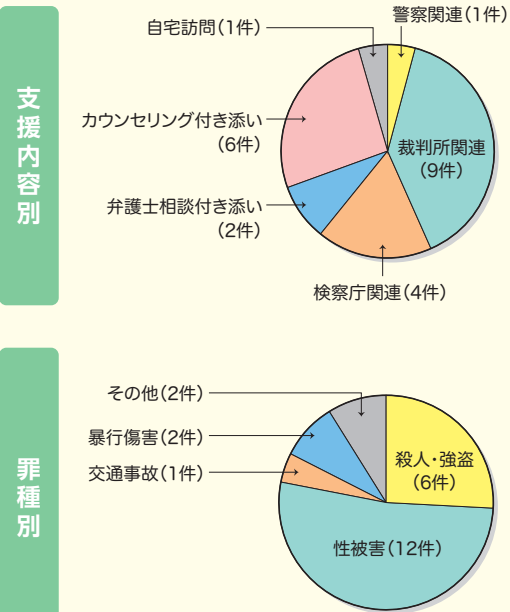
役員名簿		
役 職	氏 名	職 業 等
理事(会長)	田 中 清 隆	弁護士
理事(副会長)	細 川 秀 一	医療法人細川外科クリニック院長
	佐 藤 俊 之	トヨタ自動車株式会社総務部総務室担当部長
理 事	雄 賀 正 浩	弁護士
	青 木 宏 允	ミツカングループ 本社アドバイザー
	梅 田 重 則	豊田東海警備株式会社 代表取締役
	岩 井 恭 利	株式会社シー・アイ・シー 顧問
	宇 田 幸 生	弁護士
	豊 島 半 七	一宮商工会議所会頭
	中 西 和 紀	臨床心理士
	山 岡 輝 久	株式会社豊田自動織機 アドバイザー
	長谷川 桂子	弁護士
	小島 きぬ子	サポートセンターあいち支援活動委員長
	杉 岡 正 典	愛知県臨床心理士会 理事
監 事	宮 尾 紘 司	公認会計士
	住 田 正 夫	弁護士

令和元年度 支援活動実績

みなさまの浄財で
さまざまな活動を行うことができました



- 性犯罪被害者対応拠点「ハートフルステーション・あいち」
 - ・電話相談(71件)・面接相談(8件)・付き添い(7件)・連絡調整(25件)



令和元年度 活動報告概要

《支援活動員の研修等の開催》

- 研修会 計51回(新人研修、事例検討会等)
- 全国被害者支援ネットワーク等主催の研修会
 - 東海・北陸ブロック研修 質の向上、上半期研修(岐阜)
 - 全国フォーラム・研修会(東京)
 - 性犯罪被害者等支援体制整備促進事業研修(大阪)

《広報活動》

- 地下鉄車内広告
- 各種機関・団体、自助グループとの共働
- 警察との連携
- 犯罪被害者支援週間11/25～12/1における広報募金活動



広報活動：地下鉄車内広告(ドアステッカー)

《受託事業》

- 愛知県受託事業
 - 性犯罪性暴力被害者支援連絡会議開催
 - 性犯罪支援ポスター等の作成と配布
 - 性暴力被害者支援看護師(SANE)の養成支援
- 名古屋市受託事業
 - 一時避難施設の提供(1回)
 - 名古屋市職員研修(2回)
 - 犯罪被害者等支援講座(4回)
 - 犯罪被害を学ぶ会(4回)



受託事業：SANEの養成支援



受託事業：犯罪被害を学ぶ会

《犯罪、交通事故被害者遺族の方による講演》

- 「命の大切さを学ぶ教室」令和元年度実績
 - 延べ39校で実施(中学校24校、高等学校15校)
 - 受講した生徒による、警察庁主催作文コンクールにおいて、中学生の部名古屋市立萩山中学校2年(当時)中西大地さんが警察庁長官賞を受賞しました。
 - また、高校生の部学校法人滝学園滝高等学校3年(当時)坂田侑美奈さんが文部科学大臣賞を受賞しました。

警察庁ホームページから
作文をご覧いただけます。



●企業、慈善団体での講演



(株)NATION.



(株)豊田自動織機

警察庁長官賞受賞 希望をつかむ手

愛知県 名古屋市立萩山中学校二年 中西大地

- 「夢や希望をつかむためにこの手はしっかり使って欲しい。」
- 僕はこの言葉が深く心に刺さった。命の大切さを学ぶ教室で則竹崇智さんが言っていた言葉だ。則竹さんは次男を交通事故で失っていた。事故の原因は運転手がスマートフォンを見ながら運転するいわゆるながらスマホだったからだ。苦しくつらい経験をされた方の言葉だったからこそそり自分の心に響いた。
- 平成30年にながらスマホによって起こった事故は2790件というとても多いものだった。更に事故の数は年々増えてきているという。僕はこのデータを見て悲しくなった。なぜそんな軽率なことで怪我をしたり命を失う人が出てしまうのだろう。僕はそう思った。一人の軽い気持ちで重大な事故をひき起こす。そんなことがあっていいのだろうか。
- 責任感を持っていない人が運転することはよくないと思う。自己中心的で周りが見えない人が運転してはいけないと思う。自転車も同じだ。最近、自転車を運転しながらスマホをいじったりイヤホンをしている人をよく見るがそれも責任感が無いと思う。事故を少なくしていくためにはこのような人たちが自分の運転を見直し、もう一度安全運転に心がけてくれればいいと思う。
- 他にも自分の手で人を傷つけることはある。人に暴力を振るったり、SNSによるいじめをしたりとたくさんの方が多くの人を苦しめていると思う。それも全て自分が意識してその手で人を傷つけていることになる。このようなことをやっている人たちにも則竹さんの言葉のように人を傷つけるために手を使うのではなく夢や希望をつかむために使ってほしいと思った。
- 誰も傷つけないそんな世界を実現するのは無理だと思う。誰だって悩みを抱えるときはあるし、苦しい時だってある。しかし人が軽率な考えで起こしたことによって人を傷つける。そんなことは減らせると思う。自分の軽率な行動が誰かを苦しめ、傷つけてしまうかもしれないということを誰もが理解することを僕は強く願っている。そして自分の手で夢や希望をつかみ、笑顔があふれる世の中になっていけばいいと思った。